

ただみ・モノとくらしのミュージアム

第5回
企画展

「なにでできてる？」

「素材からみる民具」 開催中

ただみ・モノとくらしのミュージアムでは第5回企画展「なにでできてる？」

「素材からみる民具」を、7月18日から令和9年2月14日まで開催しています。担当する原永円香学芸員に、今回の企画展について伺いました。

Q この企画を立てたきっかけ、理由は？

民具は、石・土・金属・動植物など、さまざまな「素材」で作られています。「素材」を見つめることで、手仕事の様子や技が見られ、使い方の工夫や知恵を知ることができます。民具を作る技術、使う技術を通して、地域の文化を明らかにするのが民具学です。一方、使われてきた民具に美を見出したのが民藝の思想です。本展では、一つの民具を、民具学と民藝の二つの視点から見て触れて、民具の魅力を再発見したいと企画しました。実際に手で民具に触れて、手ざわり、重さ、表情を実感してほしいです。

Q 展示で工夫したところは？

たくさんのおなじ民具を集めて比較する研究手法を、展示に取り入れて紹介しています。たとえば、展示しているトウミは、木製3点、金属製1点です。同じトウミでも、ひとつひとつ見比べてみると、違う点を見つけることができます。展示室でよく見比べてみてください。



▲「トウミ」にもいろいろあります

Q 見てほしい資料を教えてください

『考古資料も民具？考古資料×民具』というコーナーです。民具の提唱者である渋沢敬三は、民具を、「我々同胞が日常生活の必要から技術的に作り出した身辺卑近（身の回り）の道具」と定義しました。昔の人類にとっての「身辺卑近の道具」＝考古資料の土器・石器と考え、素材を共通のキーワードに、考古資料と民具を並べて展示しました。縄文時代の石斧と民具の砥石、16～17世紀の漆器と民具の漆器など、組み合わせを楽しんでいただければと思います。



▲黒谷館跡から出土した16～17世紀の漆器(左)と民具として収集された嘉永3年(1850)の漆器(右)

企画展

「奥会津の道」も

開催中！

奥会津7町村文化施設間連携企画展「奥会津の道」が7月18日に開幕しました。県内外14市町村15施設で開催。只見町内では2施設で開催しています。ぜひお越しください。

ただみ・モノとくらしのミュージアム

只見町が所有する1万点以上の民具コレクションや、町内で発掘された考古資料の中から、六十里越峠や八十里越峠などを通じて、他地域とやり取りされた資料を紹介します。



▲六十里越・日光道への道標

●お問合せ先

ただみ・モノとくらしのミュージアム

☎ 0241-86-2175

「化け民具」って

知ってる？

昔の道具(民具)が長い年月を経て、生きもののような気配をまとい、動物の姿へ「化けた」としたら。そんな想像から「化け民具」は生まれました。

「化け民具」は今年生まれたばかり。最初に4種類の「化け民具」が誕生し、現在は15種類まで増えました。民具の数だけ、これからもどんどん増えていくかも……。

今回は作者の原田貢さん(只見町黒谷出身)に化け民具の誕生秘話を伺いました。



▲最初に誕生した土崩シカ

Q 「化け民具」が誕生したきっかけは？

父(原田岩夫さん)が小学校で本の読み聞かせボランティアをしていて、民具をテーマにした絵本の作成をお願いされました。

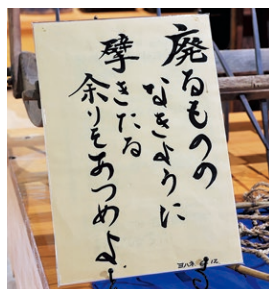
ただ、作ってみると、あまり面白くなくて……そんなときに、只見の生きものと民具を組み合わせたら面白いのでは、と考えて「化け民具」を描きました。令和8年3月の朝日いいもの集めちゃった市で初めてイラストを展示しました。現在は、ただみ・モノとくらのミュージアムでモチー

フの民具と並べて展示しています。

Q この斬新な組み合わせは、どこから思いつきましたか？

改めて故郷の民具に向き合ったときに、静止している民具に「生きもののようないろ」が見えました。民具には、使われたことによる歪みや擦り減りが見られます。そこには只見の人々の「暮らしの残り香」が凝縮されているように感じました。

また、旧朝日公民館で行われていた民具収集の場では聖書の一説が引用されています。「**廃るもの**のなきようにさきたる余りをあつめよ」(ヨハネによる福音書6:12)この言葉は、民具が残された現在をどう見るか、未来へどう引き継ぐかという問いだと思います。



▲残されたものを集めることは大切だ、民具収集の精神

役目を終えて「余り」となった民具の中に、生活の記憶の断片を見出すこと。残された民具の残っている側面を見つめる視点から「化け民具」という表現を始めました。

Q イチオシの「化け民具」を教えてください

「スイノウサギ」です。より親しみを持ってもらおうと思い、可愛いデザインを意識して描きました。民具と動物の組み合わせはそれぞれの名前がどのようにかかるか、言葉遊びのように考えています。

只見の道具と動物、昔からこの地にある『いいモノ』が重ね合わさって生まれた「化け民具」が、民具を知ってもらう入口となり、皆さんに民具の新しい良さや面白さを感じてもらえれば幸いです。



▲スイノウサギが大きい耳になっているスイノウサギ

河井継之助記念館

移築保存された継之助終焉の間、司馬遼太郎「峠」コーナーのほか、八十里越の歴史をたどる「八十里越と只見展」を開催しています。河井継之助が八十里越を越える際に使用したと伝えられる赤ケットや、八十里越の様子を記録された長谷部家文書の写しなどを展示。会津と越後を結ぶ道の歴史を紹介します。



▲河井継之助が使用されたとされる赤ケット(毛布)

●お問合せ先

只見町 河井継之助記念館
☎0241-8212870
各施設の展示期間や展示内容など詳細は、左記二次元コードからご確認ください。



奥会津歳時記の郷WEBサイト